

復職支援研修における標準プログラム

東京都看護職員地域確保支援事業

施設名 ○○○病院

コース		看護師 3日	助産師 3日
プログラム		講義、院内見学、技術演習、外来・病棟見学実習	講義、院内見学、技術演習、産科外来・病棟見学実習
1 目 目	AM	◆自己紹介・オリエンテーション・復職支援研修に関する情報の確認 ◆講義(最新の医療・看護の動向)	
	PM	講義(医療安全、感染管理)、外来・院内見学	
2 目 目	AM	<p>◆講義・技術演習<事例を設定し指示に基づく実施></p> <p>1 採血、筋肉・皮下・静脈注射等 (1) 薬剤処方箋・指示の確認 (2) 必要物品の準備 (3) 患者確認 (4) 刺入部位の確認 (5) 駆血帯の扱い、刺入角度 (6) 針とルートの固定 (7) 点滴ルートの種類と滴下数の合わせ方 (8) 廃棄物処理</p> <p>2 輸液ポンプの取り扱いなど (1) ポンプ専用ルートの種類とセッティング (2) 禁忌(フリーフロー等)事項など操作方法</p> <p>3 急変時の対応 (1) 講義 (2) 救急カート (3) AEDの紹介</p>	<p>【技術演習(看護師・助産師)】指導体制・方法</p> <p>1 受講生4名に対し1名の指導者を配置 2 準備 (1) 腕モデル(静脈・採血、筋注用等) ※腕モデル以外への針刺し(自己血糖測定含む)は行わない ※復職支援研修における受講生が「実施できない項目」に基づいて実施する (2) 椅子、注射台及びベッド (3) 輸液ポンプ (4) 車椅子、ストレッチャー、安楽枕 (5) その他、それぞれの技術項目に必要な物品を準備 3 デモンストレーション グループ毎もしくは全体で準備から終了まで 4 自己練習 繰り返し練習する時間を設ける 質問を受ける、実践指導等</p>
	PM	<p>◆講義・技術演習</p> <p>4 薬剤の知識 (1) 講義(与薬方法、確認、観察等)</p> <p>5 フィジカルアセスメント</p>	<p>◆産科外来・病棟見学実習</p> <p>1 病棟オリエンテーション (1) 病棟概要(特徴、構造、連携、医療機器等) (2) スタッフ紹介 (3) 主な疾患と看護、薬剤など (4) 主に使用する薬剤(点滴・内服薬)と注意事項</p>
3 目 目	AM	<p>◆外来・病棟見学実習</p> <p>2 援助の実際 (1) 環境整備・リネン交換 (2) VS測定、体位変換、移乗・移送 (3) 清潔援助(清拭、口腔ケア、足浴等) (4) 食事の援助、排泄の介助</p> <p>3 検査等見学 (1) 検査に関連する処置の流れ (2) 検査に関する注意・禁忌項目等 (3) 検査前後の観察、ケア等 4 カンファレンス参加 ※カンファレンス後も時間があれば実習</p>	<p>◆産科外来・病棟見学実習</p> <p>2 援助の実際 (1) 妊婦ケア 各週数の保健指導 (2) 産婦ケア 分娩間接介助の見学 分娩監視装置の装着と判読 第1期～第4期までの看護 (3) 褥婦ケア 授乳指導・退院指導・乳房ケア (4) 新生児ケア 出生時・入院時・退院時 (5) 産後検診・ケア</p> <p>3 検査等見学 (1) 検査に関連する処置の流れ (2) 検査に関する注意・禁忌項目等 (3) 検査前後の観察、ケア等</p> <p>4 カンファレンス参加 ※カンファレンス後も時間があれば実習</p>
	PM	<p>【外来・病棟見学実習(看護師)】 指導体制・方法</p> <p>1 1名の受講生に1名の指導者を配置 2 看護師長もしくは研修担当者がオリエンテーションを実施 3 指導看護師に付いて一緒に援助を行う 4 検査・処置は見学とする ※援助の際は必ず患者に承諾を得る ※所属の看護師の指導のもとで行う</p>	<p>【産科外来・病棟見学実習(助産師)】 指導体制・方法</p> <p>1 1名の受講生に1名の指導者を配置 2 助産師に付いて一緒に援助、又は見学を行う 3 分娩があれば適宜見学を行う 4 検査・処置は見学とする</p> <p>※援助の際は必ず患者に承諾を得る ※所属の看護師の指導のもとで行う</p>
		交流会・再就業支援相談・アンケート記入	交流会・再就業支援相談・アンケート記入

*原則として毎日、研修終了前に1日の振り返りを行う。

1日随時(看護師・助産師)		
プログラム 講義・院内見学等		
1 目 目	AM	◆自己紹介・研修オリエンテーション・復職支援研修に関する説明 ◆講義(最新の医療・看護の動向、医療安全、感染管理)
	PM	◆外来・病棟見学(助産師コースは産科外来・産科病棟)、看護技術演習(採血、筋肉・皮下・静脈注射等) ◆研修後アンケート入力